

決まり字	歌 番号	百人一首 (上段が上の句、下段が下の句)	語呂合わせ
一字 決まり (7句)	87	むらさめの つゆもまだひぬ まきのはに きりたちのぼる あきのゆふぐれ	村の霧
	18	すみのえの きしによるなみ よるさへや ゆめのかよひぢ ひとめよくらむ	酔の夢
	57	めぐりあひて みしやそれとも わかぬまに くもがくれにし よはのつきかな	目に雲
	22	ふくからに あきのくさきの しをるれば むべやまかぜを あらしといふらむ	踏む部屋
	70	さびしさに やどをたちいでて ながむれば いづこもおなじ あきのゆふぐれ	サイズ
	81	ほととぎす なきつるかたを ながむれば ただありあけの つきぞのこれる	ほたた～
	77	せをはやみ いはにせかるる たきがはの われてもすゑに あはむとぞおもふ	背、割れて
二字 決まり (42句)	52	あけぬれば くるるものとは しりながら なほうらめしき あさぼらけかな	明け、なお恨めし
	3	あしびきの やまどりのをの しだりをの ながながしよを ひとりかもねむ	足、長々
	43	あひみての のちのところに くらぶれば むかしはものを おもはざりけり	愛は昔
	61	いにしへの ならのみやこの やへざくら けふここのへに にほひぬるかな	いに、けふこ
	74	うかりける ひとをはつせの やまおるしよ はげしかれとは いのらぬものを	うか、はげ (うっかりハゲ)
	65	うらみわび ほさぬそでだに あるものを こひにくちなむ なこそをしけれ	恨み恋に朽ちる
	5	おくやまに もみぢふみわけ なくしかの こゑきくときぞ あきはかなしき	奥から声
	72	おとにきく たかしのはまの あだなみは かけじやそでの ぬれもこそすれ	音、欠ける
	82	おもひわび さいもいのちは あるものを うきにたへぬは なみだなりけり	重い浮き
	26	をぐらやま みねのもみぢば ころろあらば いまひとたびの みゆきまたなむ	小倉 いまひと
	51	かくとだに えやはいぶきの さしもぐさ さしもしらじな もゆるおもひを	かく、さし (角、指し)
	6	かささぎの わたせるはしに おくしもの しるきをみれば よぞふけにける	傘が白い
	91	きりぎりす なくやしもよの さむしるに ころもかたしき ひとりかもねむ	霧の衣
97	こぬひとを まつほのうらの ゆふなぎに やくやもしほの みもこがれつつ	来ぬ人を妬く	

決まり字	歌 番号	百人一首 (上段が上の句、下段が下の句)	語呂合わせ
二字 決まり (42句)	24	こ のたびは めさもとりあへず たむけやま もみぢのにしき かみのまにまに	この、紅葉
	41	こ ひすてふ わがなはまだき たちにけり ひとしれずこそ おもひそめしか	恋する人
	10	こ れやこの ゆくもかへるも わかれては しるもしらぬも あふさかのせき	コレや！知る
	40	し のぶれど いろにいでにけり わがこひは ものやおもふと ひとのとふまで	しのもの (市の物)
	37	し らつゆに かぜのふきしく あきののは つらぬきとめぬ たまぞちりける	しらけたつら
	73	た かさごの をのへのさくら さきにけり とやまのかすみ たたずもあらなむ	鷹と山
	55	た きのおとは たえてひさしく なりぬれど なこそながれて なほきこえけれ	滝の名
	4	た ごのうらに うちいでてみれば しるたへの ふじのたかねに ゆきはふりつつ	田子富士
	16	た ちわかれ いなばのやまの みねにおふる まつとしきかば いまかへりこむ	立ち松
	89	た まのをよ たえなばたえね ながらへば しのぶることの よわりもぞする	たましいの (魂の)
	34	た れをかも しるひとにせむ たかさごの まつもむかしの ともならなくに	垂れ松
	17	ち はやぶる かみよもきかず たつたがは からくれなゐに みづくくるとは	血はからく
	23	つ きみれば ちぢにものこそ かなしけれ わがみひとつの あきにはあらねど	月は我が身
	13	つ くばねの みねよりおつる みなのがは こひぞつもりて ふちとなりぬる	つくばの恋
	36	な つのは まだよひながら あけぬるを くものいづこに つきやどるらむ	夏雲
	33	ひ さかたの ひかりのどけき はるのひに しづこころなく はなのちるらむ	久し振り
	90	み せばやな をじまのあまの そでだにも ぬれにぞぬれし いろはかはらず	店は濡れ
	14	み ちのくの しのぶもぢずり たれゆゑに みだれそめにし われならなくに	道、乱れし
	94	み よしのの やまのあきかぜ さよふけて ふるさとさむく ころもうつなり	見よ、故郷
	100	も もしきや ふるきのきばの しのぶにも なほあまりある むかしなりけり	もも、なお余る
66	も ろともに あはれとおもへ やまざくら はなよりほかに しるひともなし	もろ、花よ	

決まり字	歌 番号	百人一首 (上段が上の句、下段が下の句)	語呂合わせ
二字 決まり (42句)	59	やすらはで ねなましものを さよふけて かたぶくまでの つきをみしかな	やすかったふく (安かった服)
	47	やへむぐら しげれるやどの さびしきに ひとこそみえね あきはきにけり	八重は人
	71	ゆふされば かどたのいなば おとづれて あしのまるやに あきかせぞふく	ゆうのあし
	46	ゆらのとを わたるふなびと かぢをたえ ゆくへもしらぬ こひのみちかな	ゆらがゆく
	85	よもすがら ものおもふころは あげやらで ねやのひまさへ つれなかりけり	よもね屋
	62	よをこめて とりのそらねは はかるとも よにあふさかの せきはゆるさじ	世を世に
	20	わびぬれば いまはたおなじ なにはなる みをつくしても あはむとぞおもふ	詫びを尽くして
三字 決まり (37句)	79	あきかぜに たなびくくもの たえまより もれいづるつきの かげのさやけさ	秋風がもれる
	1	あきのたの かりほのいほの とまをあらみ わがころもでは つゆにぬれつつ	秋の我が衣
	39	あさぢふの をののしのはら しのぶれど あまりてなどか ひとのこひしき	朝、十のあまり
	78	あはぢしま かよふちどりの なくこ糸に いくよれざめぬ すまのせきもり	淡路島、行くよ
	45	あはれとも いふべきひとは おもほえて みのいたづらに なりぬべきかな	哀れ、身のいたづら
	44	あふことの たえてしなくば なかなかに ひとをもみをも うらみざらまし	会うこと、人と
	12	あまつかぜ くものかよひぢ ふきとぢよ をとめのすがた しばしとどめむ	あまつ おとめ (天津乙女)
	7	あまのはら ふりさけみれば かすがなる みかさのやまに いでしつきかも	あまのみかさ
	56	あらざらむ このよのほかの おもひでに いまひとたびの あふこともがな	あらざき いま
	69	あらしふく みむろのやまの もみぢばは たつたのかはの にしきなりけり	嵐が立つ
	30	ありあけの つれなくみえし わかれより あかつきばかり うきものはなし	有明のあかつき
	58	ありまやま むなのささはら かせふけば いでそよひとを わすれやはする	有馬、痛
	21	いまこむと いひしばかりに ながつきの ありあけのつきを まちいでつかな	今子、あり
63	いまはただ おもひたえなむ とばかりを ひとつてならで いふよしもがな	今は、ひとつ	

決まり字	歌 番号	百人一首 (上段が上の句、下段が下の句)	語呂合わせ
三字 決まり (37句)	60	おほえ やま いくののみちの とほければ まだふみもみず あまのはしだて	大江、まだ～
	95	おほけ なく うきよのたみに おほふかな わがたつそまに すみぞめのそで	OK、分かった
	98	かぜそ よく ならのをがはの ゆふぐれば みそぎぞなつの しるしなりける	風そよく、みそ
	48	かぜを いたみ いはうつなみの おのれのみ くだけてものを おもふころかな	風を、くだけ
	80	ながから ころもしらず くろかみの みだれてけさは ものをこそおもへ	長髪、乱れて
	84	ながら へば またこのごろや しのばれむ うしとみしよぞ いまはこひしき	ながら牛
	53	なげき つつ ひとりぬるよの あくるまは いかにひさしき ものとかはしる	嘆きイカ
	86	なげけ とて つきやはものを おもはする かこちがほなる わがなみだかな	嘆け！過去を
	25	なにし おはば あふさかやまの さねかづら ひとにしられで くるよしもがな	なにし、ひとにし
	96	はなさ そふ あらしのにはの ゆきならで ふりゆくものは わがみなりけり	花誘う、ふり
	9	はなの いろは うつりにけりな いたづらに わがみよにふる ながめせしまに	花の我が身よ
	2	はるす ぎて なつきにけらし しろたへの ころもほすてふ あまのかぐやま	春過ぎて衣干す
	67	はるの よの ゆめばかりなる たまくらに かひなくたたむ なこそをしけれ	春の会
	35	ひとは いさ ころもしらず ふるさとは はなぞむかしの かににほひける	人は、話そう
	99	ひと もをし ひとつうらめし あぢきなく よをおもふゆゑに ものおもふみは	人も、世を思う
	49	みかき もり 糸じのたくひの よるはもえて ひるはきえつつ ものをこそおもへ	みかき、昼は消え
	27	みかの はら わきてながるる いづみがは いつみきとてか こひしかるらむ	みかの、泉
	32	やまが はに かぜのかけたる しがらみは ながれもあへぬ もみぢなりけり	山が流れる
	28	やまざ とは ふゆぞさびしさ まさりける ひとめもくさも かれぬとおもへば	山里、ひと目もなく
	8	わがい ほは みやこのたつみ しかぞすむ よをうちやまと ひとはいふなり	我が居よ
92	わがそ では しほひにみえぬ おきのいしの ひとこそしらね かわくまもなし	我が袖、人知らね	

決まり字	歌 番号	百人一首 (上段が上の句、下段が下の句)	語呂合わせ
三字 決まり (37句)	38	わすら るる みをばおもはず ちかひてし ひとのいのちの をしくもあるかな	和すら、人の命
	54	わすれ じの ゆくすゑまでは かたければ けふをかぎりの いのちともがな	忘れじ、今日を
四字 決まり (6句)	29	こころ あてに をらばやをらむ はつしもの おきまどはせる しらぎくのはな	こころあおき (心青き)
	68	こころ にも あらでうきよに ながらへば こひしかるべき よはのつきかな	心に、恋しがる
	75	ちぎり おきし させもがつゆを いのちにて あはれことしの あきもいぬめり	ちぎりをあわれむ
	42	ちぎり きな かたみにそでを しぼりつつ すゑのまつやま なみこさじとは	ちぎりき、末の松 (契り木、末の松)
	88	なには えの あしのかりねの ひとよゆゑ みをつくしてや こひわたるべき	なにはへ身を尽くす
	19	なには がた みじかきあしの ふしのまも あはでこのよを すぐしてよとや	なにはが泡ふく
五字 決まり (2句)	93	よのなか は つねにもがもな なぎさこく あまのをぶねの つなでかなしも	世の中は、あまの
	83	よのなか よ みちこそなけれ おもひいる やまのおくにも しかぞなくなる	世の中よ、山の奥にも鹿
六字 決まり (6句)	31	あさぼら け ありあけのつきと みるまでに よしののさとに ふれるしらゆき	あさぼらけあふれる (朝ぼらけ、溢れる)
	64	あさぼら け うちのかはぎり たえだえに あらはれわたる せぜのあじろぎ	朝ぼらけ鶴、現れる
	15	きみがた め はるののにいでて わかなつむ わがころもでに ゆきはふりつつ	君がため春の我が衣
	50	きみがた め をしからざりし いのちさへ ながくもがなと おもひけるかな	黄身固めを長く
	76	わたのは ら こぎいでてみれば ひさかたの くもゐにまがふ おきつしらなみ	わたはら漕ぐと雲に浮かぶ
	11	わたのは ら やそしまかけて こぎいでぬと ひとにはつげよ あまのつりぶね	「わたのはらや」と人に告げよ